

平成16年3月期第3四半期決算関連 Q&A概要

【計測器事業に関するQ&A】

Q1: FOMA端末の生産規模は今後どう推移すると見込んでいますか？

A1: 各種の情報を総合すると、2004年度の生産台数は700万～1000万台規模となるのではないかとみています。携帯端末機メーカーからもすでに引き合いはきており、端末生産用計測器については、2003年度以上の伸びを期待しています。

Q2: 欧州のW-CDMA開発状況

A2: 欧州では、第3世代携帯電話の免許取得の条件などから、2004年以降、サービスの提供を開始する事業者が増えると見ています。さらに、各国のサービスが本格化することにより非常に大きな市場となる可能性を秘めており、これからも積極的にアプローチしていきます。なお、この市場では、シグナリングテスタやコンフォーマンステストシステムを重要な計測ソリューションとして期待しています。

Q3: 中国市場の動向について

A3: 中国PHS向け測定器の需要は、当面のピークを過ぎたと見ていました。これからは、2004年2月から開始される第3世代携帯電話の第二次試験対応に関する需要、例えばW-CDMAとの接続性試験等での貢献が期待できます。また、2005年には第3世代携帯電話のサービス開始が見込まれており、研究開発や、それに付随する端末生産・インフラ投資向け市場に注目を絞っていきます。

Q4: 北米の固定通信では、設備投資に回復の動きがあるようだが、どう見ているか。

A4: まだ期待するレベルには至らないと判断していますが、物理レイヤとその上位レイヤをターゲットにした製品開発をしていきます。なお、EoSの動きは現実化しつつあり、積極的にプロモーションを行っています。公衆通信系の40Gb/s用測定器は、まだ、大学や国などの研究開発用途が主であり需要が大きく伸びてはいません。

※EoS: Ether over SONET

Q5: IPテスタの展開

A5: 現在、1Gから10G Ethernetへ、ネットワークの大容量化が進展しています。高周波信号の測定は、当社が強みを持つところですので、ここをしっかりと捕らえていきます。また、国内外ともにハイエンド向けの測定器は行き渡った感があるので、ミドルエンドをターゲットにして取り組んでゆきたいと考えています。

Q6: IPv6にからむビジネスチャンスは？

A6: IPv6はからの通信の主要な技術となる可能性を秘めており、競争力を高めていくうえでも、真剣に取組む必要があります。コンシュマー向けでは、北米よりも日本市場にさかんな動きがあると見ているので、まずはそこをターゲットに取組んでいきます。

Q7: 今後の計測器市場の見通しについて

A7: 携帯電話関連は、順調に成長しており、今後も伸びに期待しています。光デジタル関連は、一時期に比べると大幅に縮小しましたが、今後はゆるやかな増加を期待しています。あまり大きな動きは期待できず、特に物理レイヤは厳しい状況にありますが、今後は上位レイヤ(IP)での成長を期待しています。

【財務に関するQ&A】

Q8: 為替の業績に対するインパクトはどの程度か？

A8: 営業利益ベースで、1円につき約5000万円を想定しています。

Q9: 通期の業績見通し（上方修正の可能性）について

A9: 過去を四半期ごとにみると、第3四半期はボトムであり、逆に第4四半期は売上が他の四半期に比べると伸びる傾向にありました。当第3四半期は、FOMA「冬モデル」向けの設備投資などにより相対的には順調に推移しましたが、第4四半期にさらなる伸びは期待しがたく、また、売上に応じてその分費用も積みあがります。円高による影響も考慮に入れる必要があるので、現在の見通し水準が妥当と考えています。

Q10: 棚卸残高の今後の見通しは？

A10: 直近の目標としては、売上高の25%程度に抑えたいと考えています。将来的には生産革新によって年6回転とすることを目標にしています。